

みんなが一緒に気持ちよく暮らしていけるように、わたしたち一人ひとりが、お年寄りや障がいのある人などの気持ちになって考え、協力していくことです。

移動が大変な人がいます。

お年寄りや、けがや病気のために歩くことが困難な人がいます。車いすでは自力で階段を上ったり下りたりすることができません。

少しでも段差があると、車いすはうまく前に進めなくなってしまう。



“どこに何があるか”が見えない人がいます。

目の不自由な人にとって、初めて行く場所は、どこに何があるかが分からず、常に危険と隣あわせです。また、年をとると多くの人は、ものが

見える範囲が狭くなって周りの様子がわかりにくくなります。



動作がゆっくりの人がいます。

だれでも年をとってくると、若い頃と比べて動作がおそくなります。

また、妊娠している女性は、生まれてくる命をいたわるために、ゆっくりした動きになります。



ブザーやアナウンスが聞こえない人がいます。

生まれながらに耳の聞こえない人、病気や年をとって耳が聞こえなくなる人がいます。まちで、様々な情報を知らせるアナウンスが聞こえないと、事故などがあつたとき様子がわからないので、とても不安です。



※「ありがとう」の手話

その人の身になって考えてみましょう。

体調がよくないとき、慣れない場所で困ってしまったとき、ちょっとしたひとことがとてもうれしいことがあります。困っていたり、手助けを必要としている人を見かけたら、そのときの自分の気持ちを思いだ出してみましょう。

～お手伝いのときの心がまえ～

まず、声をかけてみましょう

その人が本当はどんなことで困っているのかは、直接本人にたずねてみないとわからないものです。まずは、声をかけることから始めましょう。



断られても、がっかりすることはありません

目の不自由な人でも、車いすの人でも、毎日通っている道で慣れているからお手伝いは必要ない、という人もいます。断られても決してがっかりすることはありません。あなたの親切は確実にその人に伝わっています。

相手が何を手伝ってほしいのかを聞きましょう

お年寄りや障がいのある人などのからだの具合は、人によって違います。手伝ってほしいことも、人それぞれです。勝手な思いこみや判断をしないで、その人が何を必要としているかをよく聞くことが大切です。

決して無理はしないようにしましょう

無理をしてけがをしたり、させたり、こわい思いをさせてしまったりは、お手伝いも逆効果です。「自分ではできないかも」「ちょっと自信がない」と思ったら、まわりの人に声をかけて手伝ってもらいましょう。